

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【芸術／書道Ⅰ】

1. 対象

意欲的に授業に参加し、グループでの活動はスムーズに行うことができる。漢字の書と仮名の書の学習を通して、用筆、運筆、字形など書における専門的知識を理解しているとともに、基本的な技能も身に付けている。

2. 単元名 「漢字仮名交じりの書」（全6時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の高さを味わい深く捉えたりしている。
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。

4. 本時の目標 漢字の古典の特徴をいかした漢字仮名交じりの書の作品を制作する。（4／6時間目）

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い

漢字と仮名の調和を図りながら、漢字の古典の特徴をいかした作品を制作するにはどうすればよいか。

考えるための材料

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	考えるための材料D	考えるための材料E
虞世南「孔子廟堂碑」教科書P14～17	欧陽詢「九成宮禮泉銘」教科書P18～21	顔真卿「顔氏家廟碑」教科書 P26～29	王羲之「蘭亭序」教科書 P43～50	漢字と仮名の調和教科書 P104, 105

想定される活動

ゆったりとした用筆、向勢、伸びやか、穏やかさ、暖かみなどの魅力を感じる	鋭く引き締まった用筆、縦長で背勢、直線的、緻密などの魅力を感じる	どっしりとした用筆、正方形で向勢、蚕頭燕尾、太く重厚で力強いなどの魅力を感じる	曲線的で流れるような点画や、点画の連続、抑揚のある多彩な書きぶりに魅力を感じる	漢字の書風を生かした仮名の書き方を学ぶ
-------------------------------------	----------------------------------	---	---	---------------------

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

【対話と思考】考える材料A～Dから1つ選び、同じ古典を選んだ者でグループを作り、グループで前時の作品を鑑賞する。点画や用筆の特徴を確認する。▶「この古典の字形は背勢なので、鋭く引き締まった感じがするね。」「この古典の用筆法は蔵鋒だね。字形は正方形で向勢。どっしりとして、太く重厚で力強いのが特徴かな?」「曲線的で流れるような点画や点画の連続が特徴と言えるね。この書風に調和する仮名ってどんな感じかな?」

【まとめ】考える材料Eを活用し、漢字と仮名の調和について考え、漢字古典の特徴をいかし漢字と仮名の調和を意識して作品制作を行う。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・「古典の用筆や字形を参考にして仮名を考えると、調和のとれた漢字仮名交じりの書が制作できる。」
- ・「同じ古典を基に制作している他の人の作品を参考にして自分の作品を制作すれば、漢字の古典の特徴をいかした作品を制作することができる。」
- ・『蘭亭序』は曲線的で流れるような点画が特徴だから、仮名と調和させやすく作品がまとまる。」